



# さざなみ通信

冬の洞爺湖  
中島越しに有珠山を望む

## ごあいさつ

新しい年を迎えました。昨年は7月の『西日本豪雨災害』が発生し、9月には『台風21号』および日本初のブラックアウトをもたらした『北海道胆振東部地震』と自然災害が相次ぎました。その年の世相を表す漢字一字を日本漢字能力検定協会が発表しています。昨年の『今年の漢字』は“災”だったことは、皆さまもご記憶のことと存じます。この漢字の意味するところは、自然界の災害に加えて、財務省の決裁文書改ざん、スポーツ界でのパワハラ問題、大学の不正入試問題など、多くの方がこれらを人災や災いと捉えたために選ばれたようです。今年には天皇の即位もあります。明るい年になることを願わずにはいられません。

一方、昨年の明るい話題として、10月の京都大学の本庶佑先生のノーベル医学・生理学賞の受賞があります。免疫細胞の働きを阻害する物質を抑制することでがん免疫力を強化する、「免疫チェックポイント阻害薬」の基礎研究が評価されたものです。がん免疫療法は第4のがん治療とも言われており、現在は多くの薬剤が開発・承認されております。本庶先生が携わったオプジーボは2014年に日本初の免疫療法薬剤として悪性黒色腫に対して保険適用となりましたが、薬剤費が4000万円超と高額になったことでも話題を集めました。その後、肺がんにも適応が拡大されたことから医療費の膨張をもたらす超高額薬とされ、度重なる薬価引き下げにより現在は1/4以下の薬価になっております。また、昨年8月に米国で承認された「CAR-T細胞療法」とは、患者の血液から採取された免疫細胞に遺伝子操作を加え、がん細胞を認識して攻撃させる治療です。1回の点滴が5000万円ととん

でもなく高額ではありますが、血液のがんの一種に対して高い割合の患者で体内からがん細胞が無くなるとされております。

かつては「人命は地球よりも重い」とされて、医療にかけるお金の話題はタブー視されてきました。一人当たりの医療費が高い高齢者が増加し、超高額な薬剤も次々と登場しており、社会保障制度を維持するために薬剤の費用対効果の検討は不可避のものとなってきました。具体的には「どの薬を公的保険でカバーするか(給付の可否)」や「薬の価格設定をどうするか(価格調整)」が効率的な医療の実現には求められます。英国では「新規の医療技術を公的医療制度で使用できるか」を生活の質を加味して評価しております。日本でも薬剤の価格調整の議論が進んでいますが、限りのある財源からどのように割り振りするかは医療制度の存続のためにも必要と考えます。

平成29年7月の広報誌に「明確なエビデンスに基づかない過剰な検査や過剰な治療を抑制しようとする運動 Choosing Wisely (賢明な選択)」について紹介させて頂きました。当院はどのような疾患であっても、個別性や患者・家族の要望に想いを至らせて、必要かつ十分な医療を心がけて参ります。

本年も皆様からの変わらぬご支援・ご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



院長 中谷 玲二

平成31年1月10日

院長 中谷 玲二

## リハビリテーションの専門家と一緒に介護予防をしていきましょう!

皆さんこんにちは。洞爺温泉病院リハビリテーション課では、平成28年度から洞爺湖町より委託を受け旧洞爺村に住む方を対象とした介護予防教室「げんきクラブ」を実施しています。

「げんきクラブ」では、1ヶ月毎にリハビリ専門職と一緒に生活の様子を振り返り自宅でも運動ができていないか、不安なことや不調がないかなど確認できたり、普段行き来のできない友人と会って話をしたり一緒に運動をするなど、皆さんがこの洞爺ですずっと元気に生活できるよう、教室の内容もいろいろ工夫をしながらお手伝いさせていただいています。

平成31年度も当院で開催予定となっております。今年4月から実施する曜日が月一回の水曜日から木曜日に変更し実施する予定です。最近足腰が衰えてきたと感じている方、転倒の危険性が強くなってきたと感じている方、

生活のなかでどんな運動をしていけば良いか悩んでいる方、運動しながら交流を楽しみたい方など、皆さんの参加をぜひお待ちしております!詳しいことを聞きたい方は洞爺湖町地域包括支援センター(☎76-4822)もしくは洞爺温泉病院リハビリテーション課(☎87-2311)までお問い合わせください。

※対象は「旧洞爺村地域に住む洞爺湖町に住民票のある65歳以上の方」です。要介護認定を受けサービスを受けている方は対象となりませんのでご注意ください。



「元気クラブ」活動の様子

院内感染対策委員会より  
お知らせ

## インフルエンザ検査について

昨年末よりインフルエンザの患者さんが増えてきました。

長い綿棒を鼻の中に入れるインフルエンザ検査、痛くて嫌だった思いをした方もいると思います。なぜそんな検査を受けなくてはいけないのでしょうか?



インフルエンザウイルスを吸い込むと、鼻やのどの奥の粘膜に付着し急激に増えていきますが、検体採取はこのウイルスが最も検出されやすい鼻の奥を綿棒でしっかりと拭う必要があります。

検査結果は綿棒でとれたウイルス量に左右されません。ウイルス量が多ければ「陽性」、無ければ「陰性」という判定になりますが、うまく鼻の奥を拭えなかったり、ウイルスが増え始めたばかりの発症早期でウイルス量が少なかったりした場合「偽陰性」(=感染している可能性があっても陰性の判定になる)という結果になることがあります。

当院では数年前より、発症早期(発症 12 時間以内)

の感染を捉える事が可能な、高感度インフルエンザ検査を導入しました(現在は平日日中のみ)。この検査では専用の試薬と機器を用いて、従来よりも少ないウイルス量でも判定が可能となりました。より早期の治療開始が可能となり、患者さんの負担軽減や、集団発生防止につながります。

鼻の奥に綿棒を入れて拭うのは不快ですが、確実な検体採取でウイルスを見逃すことなく、適切な治療が行えるようご協力をお願いいたします。

当院では職員、入院患者さんとともに9割以上の方がワクチン接種を受け予防に努めていますが、発症しない訳ではありません。ひとりひとりが適切なマスク着用、手洗いを常に心掛け、症状がある場合は速やかに受診し、インフルエンザの流行期を乗り切りましょう。





昨年の12月8日から9日の日程で新潟市において開催された日本死の臨床研究会年次大会に参加しました。

今回の年次大会のテーマは“ひらかれた看取りをすべての人と ~「いのち」と「死」をみつめて~”でした。当院のホスピスセミナーなどでも最近取り上げられることが多いスピリチュアルペインや、それに対応するスピリチュアルケアなどについて多くの学びがありました。一例としては、患者、また家族にとって、死までの時間が比較的長く、その間をいかに過ごすかに焦点が当たる時と、死が差し迫っていると強く意識される時とでは感じる恐怖感や不安感も違いがあり、その時そ

の時に応じた対応が必要になってくるということです。患者の家族からは「わかっているつもりでも、受け入れられない」「こんなに辛そうなのになにもしてあげられない、それがもっと辛い」「苦しい辛い思いをしている患者をみることができない、自信がない」などとよく耳にすることがあります。スピリチュアルペイン・スピリチュアルケアはホスピス・緩和ケア病棟という死を強く意識せざるを得ない状況にある患者だけでなく、その患者を支える家族にも言えるものだと感じました。

死を意識しながら生きる患者、それを支える家族の日々を見守り、穏やかに過ごせるよう関わり、ケアを行っていききたいと思います。



会場にて筆者(左)と中谷院長



## とつや あちこち

洞爺湖周辺の  
注目スポット紹介コーナー!!



新年あけましておめでとうございます。今年も洞爺の魅力的なお店をたくさん紹介していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

今年最初に紹介させていただくのは、洞爺湖畔に佇む一軒家のお店『YUCANA』(ユカナ)さんです。店主の藤井さんに伺うと「カフェやレストランというよりは食堂みたいなお店です」とのこと。メニューは藤井さんが出したい料理を出すというモットーで決めた鶏肉のフォーやグリーンカレーなどのアジア料理とともに、スイーツも充実しています。どの料理やスイーツも美味しく満足すること間違いのないのですが、個人的に大好きなのがデビルズフードケーキ。皆さんがあの味を知ってしまったらと心配しているほどです(実際売れ切れていることが多いです)。

店名は藤井さんのお名前がゆかさんなので、ゆかっばいお店だなのというのが由来だそう。数々の料理の優しい味とともに、店内は可愛らしいインテリアや今の時期にピッタリな薪ストーブがあり、とても居心地の良い空間が広がっています。そんな素敵な雰囲気のあるお店は、まさに藤井さんっばい人柄がしっかりとマッチしていることにびっくりしました。

ぜひ洞爺に来られた際は YUCANA さんに立ち寄られてはいかがでしょうか。冬の洞爺湖の静けさとともに、きっと忘れられない思い出になること間違いありません!



『YUCANA』

住所 洞爺湖町洞爺町 146 番地 6 営業時間 12:00~16:00(L015:00)  
※定休日は金曜日、日曜日は不定休 ※ケーキはテイクアウトもできます

# 楽しかった演芸会!!

年に1度のお楽しみ、洞爺温泉病院演芸会を11月14日に開催しました。今回は演芸会で3年連続お琴の演奏を披露している事務部総務課稲木恭子さんに演奏後の感想を寄せていただきました。

「当院の上田先生にお琴のご指導をいただいてから3年が経ち、演芸会でのお琴演奏も今年で3回目になりました。



琴演奏 奏者は左から  
上田医師、稲木課員、森岡看護部長

今回は『里の秋』『村まつり』『もみじ』の3曲で、緊張していた私は思うような演奏ができませんでしたが、患者さんが大きな声と一緒に歌ってくださり、お陰様で私自身も楽しんで演奏することができました。

来年も患者さんの元気な歌声が聴ける事を楽しみに、また1年、頑張って練習に励みたいと思います。」

感想にもありましたが、今年もたくさんの患者さんが会場に集まってくださり、お琴の他、病院保育園児たちのかわいいお遊戯やカラオケ大会、職員による女装・仮装コンテストなど盛りだくさんの内容で楽しいひと時を過ごしていただきました。



保育園児たちのお遊戯



仮装大会

# 今年もサンタが出現!!

12月13日(木)にふれあいピアノコンサートを病院のロビーで行いました。コンサートは毎月実施していますが、今回はクリスマスということで、サンタクロースの衣装を着て合唱・曲の演奏を行いました。



ピアノコンサート会場



緩和ケア病棟 クリスマス会場

また、クリスマス会を12月20日に緩和ケア病棟で開き、栄養課が作成したケーキをいただき、中谷院長からプレゼントを渡されました。

どちらのイベントでも患者さんに楽しい時間を過ごしていただけたと思います。



サンタからのプレゼント

## 洞爺温泉病院の理念

- 個別性を尊重した医療の提供
- 信頼されるチーム医療の実践

編集後記 秋から始めた筋トレですが、奇跡的に続いておりヨガマット、軽量のダンベル、バランスボールと着々とグッズも増え楽しくトレーニングしています。久しぶりに出来なかったことが出来るようになる充実感を感じています。皆さんの2019年も充実した1年になりますように。(N.N)

## 企画・編集

医療法人社団洞仁会洞爺温泉病院 広報図書委員会

〒049-5892

虻田郡洞爺湖町洞爺町54-41

TEL 0142-87-2311

FAX 0142-87-2260

ホームページ

<http://www.toya-onsen-hospital.or.jp>

